科目ナンバリング	U-LAS01 10005 LJ38						
授業科目名 <英訳>	東洋史Ⅰ Oriental History I			担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 教授 古松 崇志 人文科学研究所 教授 村上 衛 人文科学研究所 教授 石川 禎浩		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(基礎)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	火2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

国交正常化から半世紀以上が経った現在、かつて「友好」を謳った日中関係は、緊迫の度を増している。経済の結びつきは相変わらず強く、もはや互いの存在を抜きに両国の経済は考えられないが、安全保障や外交などの面では依然として対立の火種は解消せず、日中両国民の相手国に対するイメージも改善にはほど遠い状態である。加えて、中ロ関係と米中関係が、それぞれロシアによるウクライナ侵攻とアメリカによる台湾への支援強化という情勢の変化にともなって、大きく流動化し、日中関係もコロナ禍による往来の制限が解除されたのちも旧に復するどころか、逆に不透明感を増している。これら現在の日中関係を考えるにあたっては、古代以来のその関係が数百年単位の長いスパンで見た場合、どのように推移し今日に至っているのかを知ることが、間違いなく重要である。本講義は、このような現状を意識しつつ、長期的な視野から9世紀から20世紀後半までの日中関係を政治・社会・経済・文化の多様な側面から検討する。そして日中間の交流・対立や相違点・類似点についての歴史的理解を深めるようにしたい。

[到達目標]

9世紀から20世紀後半までの日中関係について、政治・社会・経済・文化面を中心に基礎的な知識を習得し、日中間の交流・対立や日本と中国の相違点・類似点について歴史的に理解できるようになる。

[授業計画と内容]

第1回　ガイダンス
第2回　密教の日本伝来とユーラシア東方(古松）
第3回　巡礼僧と海商（古松）
第4回　大交流の時代（古松）
第5回　元明交替と室町文化（古松）
第6回　日中の差違――明末～清代中期（村上）
第7回　明治維新と洋務運動（村上）
第8回　在華紡と中国紡（村上）
第9回　近代日中製糸業の展開（村上）
第10回　日中対立と中国経済（村上）
第11回　中国国民党と中国共産党の比較（石川）
第12回　蒋介石・毛沢東の日本観（石川）
第13回　日中戦争と戦後処理（石川）
第14回　日中国交正常化への道のり（石川）
《期末試験／学習到達度の評価》
第15回　フィードバック

東洋史Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

東洋史Ⅰ(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

定期試験（筆記）

[教科書]

使用しない
　適宜プリントを配布する

[参考書等]

　（参考書）
荒野泰典・石井正敏・村井章介（編）　『日本の対外関係３通交・通商圏の拡大』（吉川弘文館）ISBN:978-4-64-201703-9
荒野泰典・石井正敏・村井章介（編）　『日本の対外関係４倭寇と「日本国王」』（吉川弘文館）ISBN:978-4-64-201704-6
吉澤誠一郎 『シリーズ中国近現代史①　清朝と近代世界』（岩波書店）ISBN:978-4-00-431249-9
川島真 『シリーズ中国近現代史②　近代国家への模索』（岩波書店）ISBN:978-4-00-431250-5
石川禎浩 『シリーズ中国近現代史③　革命とナショナリズム』（岩波書店）ISBN:978-4-00-431251-2
久保亨 『シリーズ中国近現代史④　社会主義への挑戦』（岩波書店）ISBN:978-4-00-431252-9

[授業外学修（予習・復習）等]

　参考書などを読み、中国近世・近代史についての基本的知識を身につけてから講義に臨むこと。

[その他（オフィスアワー等）]

教員（石川禎浩）の連絡方法は以下のとおり
　メール：ishikawa@zinbun.kyoto-u.ac.jp　電話：内6934
　オフィスアワー：毎週月曜9:30-10:30